

公益社団法人 日本都市計画学会北海道支部
平成 29 年度 第 2 回都市・地域セミナー
「ガーデンによるまちづくりー花のまちの商店街の取り組みー」開催報告書

開催日時 : 平成 29 年 9 月 9 日 (土)
見学会 : 15 時 10 分～16 時
講演会 : 16 時 15 分～16 時 45 分
懇談会 : 16 時 45 分～17 時 30 分
会場 : 恵庭リサーチ・ビジネスパーク 3 階 308
見学会
案内人 : 恵み野商店会 会長 小笠原 剛氏
恵み野商店会ガーデンプロデューサー 内倉 真裕美氏
講演
講師 : 恵み野商店会ガーデンプロデューサー 内倉 真裕美氏
懇談会
パネリスト : 恵み野商店会 会長 小笠原 剛氏
: ブレインズ 代表 内倉 真裕美氏
コーディネーター : NPO 法人ガーデンアイランド北海道 事務局長 有山 忠男氏
参加者 : 15 名

公益社団法人 日本都市計画学会北海道支部では、都市地域づくりをテーマに毎年セミナーを開催しています。平成 29 年度第二回セミナーは、商店街の通り全体をガーデンにしている恵み野商店街(恵庭市)の取り組みをテーマに開催しました。

恵み野商店街の現地を恵み野商店会会長 小笠原 剛氏と恵み野商店会ガーデンプロデューサー 内倉 真裕美氏の案内のもと見学し、ガーデンをつくることになった経緯、整備と維持管理の方法、継続するための苦労など貴重なお話を伺いました。以下にその概要を報告します。

【第 1 部 恵み野商店街の見学会】

小笠原 剛氏、内倉 真裕美氏を案内人に、15 名が参加して、JR 恵み野駅から恵庭リサーチ・ビジネスパークまで徒歩により移動し現場見学会を実施しました。各ポイントでは、案内人やガーデンの整備担当者に説明をしていただき、質疑応答で理解を深めました。



同日、市民向けのオープンガーデンのイベントが開催されていました。

見学会のあらし

【第2部 講演会「商店街ガーデンギャラリーの創造」16:15～】

見学会に続き、恵庭リサーチ・ビジネスパークにおいて、講演会を開催しました。西山徳明支部長からの挨拶の後、内倉真裕美氏による講演会が始まりました。内倉氏は、恵み野の花カフェきゃろっとの店長を勤めるかたわら、恵庭花のまちづくり推進協議会会長、美しい恵み野花の街づくり推進協議会事務局長、ブレインズ種まく私たち代表、ガーデンアイランド北海道副理事長等に就き、様々な花のまちづくり活動で活躍されています。



●恵み野の花のまちづくりの始まり

花苗生産が盛んな恵庭市では、1990年に市制施行20周年記念の「花と暮らし展」開催を契機に1991年恵み野フラワーガーデンコンテストを開催。ここから恵み野を中心にガーデニングする家が増えました。1995年の花のまちづくりコンクール（建設大臣賞）受賞後は視察者が増え、メディアの露出も増えました。

●恵み野花協スタート

1996年に4町内会、愛好会、4老人会含む13団体による「美しい恵み野花のまちづくり推進協議会」が発足し機関誌（花便り）の発行、花基金の募集、環境ボランティアや講演会の開催などを展開。視察・訪問者の対応のため恵み野花マップ作成なども行い1998年全国紙「ミセス」にも特集されました。2004年にはボランティアが支える花の街づくりが評価され、都市景観大賞を受賞しました。

●オープンガーデンからコミュニティガーデン（第2のステージ）へ

2014年～2016年の商店街バリアフリー工事では、恵庭市がバリアフリー工事と店先の駐車帯設置を行い、商店会では店前の植樹マスの全面改修を行うこととなり、内倉氏を中心に店舗のイメージやローメンテナンスに配慮がされたガーデンのリニューアルに関する提案・説明会を行いました。

商店主の協力を得ながら工事を進める中、採択を想定していた助成金事業がなくなり、急きょ他の助成金の獲得を計画。「恵み野商店街ガーデンギャラリープラン」の申請書作成を皆の協力で急ピッチで進め、2015年緑の環境デザイン賞（副賞800万円）を獲得しました。その後商店会や大学生などの協力によりガーデンギャラリーは2016年8月に完成。ガーデンを活用した「晩めし市」「恵み野夏まつり」「ハロウィン」など魅力的なイベントが開催されており、花のまちづくりが楽しい取り組みに繋がっています。

●花のまちづくりで得られた教訓～100年後も「今」の笑顔が変わらないためにこれからも・・・

『代わって』：関わる人が代わることで助け合う／『替わって』：若い世代に受け継がれるようにする
『変わり続ける』：自分たちが変化に対応し、より魅力的な花のまちづくりを目指すことが大事、とのコメントをいただきました。

【第3部 懇談会 16:45～】

ガーデンアイランド北海道事務局長の有山 忠男氏のコーディネートで、懇談会を開催しました。懇談会では、商店会の人たちの意識の変化や世代交代の現状、恵み野の地域ブランドなどについて多くの質問・意見が交わされました。

小笠原 剛氏：

- ・花壇の管理はお荷物と考えていたが、商店会で話す中で管理が少なく綺麗なガーデンを目指すのを聞き自分達もできると思った。
- ・補助金投入後意識が変わりガーデンに自腹を切る人が増えてきた。今年もどうしたら管理しやすいか、話し合いながら進めている。
- ・花壇や駐車帯が付加価値となり、借りたい店舗をオーナーがより高く貸せるような商店街になるといい。空き店舗対策にもつながる。
- ・商店会の世代交代がうまくいっていると思う。今は若い店主が企画し、年配の人たちがサポートする関係ができています。若い人の役員会は常に出席率100%である。



内倉 真裕美氏：

- ・昔は「花づくりをしても人は来ない」と言われた。しかし今は恵み野の住宅を求める人が多く、地価が上がっている。また、「恵み野でやりたい」と思う店も増えてきた。
- ・外からの観光客の誘致には、まず地元の人に愛されることが重要。オープンガーデンのイベントを市民対象にしたのも、地元の人に見てもらいたい、という想いで開催した。

有山 忠男氏：

- ・恵み野の取り組みでは、最初は有志で、次に仲間が競い、他の市民も巻き込む、という段階を徐々に踏んできており、今では商店会の経済的なメリットにも繋がってきていると実感しているのでは。
- ・地域ブランディングをする中で観光を意識した将来像づくりは今後のポイントになると思う。